

第Ⅲ章 発掘調査の経過と概要

第1節 調査地域の概観

主な調査地域は今帰仁城跡の北側の地域を対象とした。この北側地域は、前章遺跡の立地と歴史的環境で記したように、中生代三畳紀の石灰岩丘陵頂部にグスク、その緩斜面一帯に集落という構成となる。北側地域はいわゆる集落遺跡として理解される。これは1609年ムラ移動し、現在の海岸部の集落へと展開しているものと考えられる(第3図)。このため遺跡所在地の現況は耕地もしくは原野となっている。ただし畑として耕作される地域は近年少なくなり、休耕地も多く過去に畑として利用されていたとおぼしき畝跡が見られるというのが現状である。また、既に耕作も行われていない露頭岩の発達した地域は手つかずの森となっており、木々の間を進み、ハブに注意要する危険を伴う踏査となり、現況を把握することは容易ではない。一方、城跡北西側の一部地域では、今帰仁村歴史文化センターの建設やその周辺に便益施設として駐車場とトイレを設置したことによって、施設下に埋土保存という形で保存されており、調査に先駆けこれらの施設及び造成土等の撤去掘削を行うことが必要であった。

さて、当該地域の現況を知る上で参考になる資料として明治36年(1903)に作成された地積図がある。文献資料や地図資料の乏しい沖縄はこのような地積図を参照に近世以前の土地利用を確認するには有用である。明治の地積図と現在の地積図を所在が確認できる里道や拝所などを参照に重ねると第4図のとおりとなる。実際に発掘調査、地表踏査によって里道が確認されている事例もある。このような土地利用に関しての地積からの分析と、発掘調査や現況踏査による確認を経て、調査地域を幾つかの地域に区分することが可能である。調査区の設定については地表観察や地籍現況を考慮して行い、発掘調査によって屋敷地を特定していく方法を採用している。

上述した調査地域は今帰仁ムラ跡を中心とした地域であるが、一方で今帰仁ムラ跡以外の集落遺跡の存在も見逃せない。但し今回対象としたムラ跡は今帰仁城跡と盛衰をともにしたと考えられる13世紀～17世紀初頭の大字今泊地域内を対象とした。具体的には志慶真ムラ跡、大川原遺跡、親泊原遺跡、今帰仁原遺跡があげられる。但しいずれも詳細な調査には至らず時期やその遺跡範囲は暫定的な解釈となっている。この他にも同時代の遺跡と推察される今泊海岸の遺物散布地や石積み遺構群、ハンタ道についても構築時期や性格の詳細は不明であるが、今後注視していくべき遺跡である。

また、いわゆる埋蔵文化財に限らず今帰仁城跡を中心とした祭祀や、今帰仁城跡廃城以後の集落についても文化的景観の保全や歴史の変遷の理解の為に個別に取り上げ紹介した。今回は今帰仁ムラを中心とし、2地点の石積み遺構群、ハンタ道のみの詳細調査となった。これ以外の遺跡を含む文化財については、時間的制約から簡単な踏査や現況把握に留まった。これについては、今後も継続し調査を貫徹することが望まれる。

第2節 発掘調査の経過

今帰仁城跡周辺遺跡の本格的な調査は近年着手されたばかりであるが、早くは1919年に島袋源一郎により著された『沖縄縣國頭郡志』に「城門に至る一帯の耕地をアタイ原と称し、即ち今帰仁村旧村落の所在地なり、今猶ほ屋敷の跡歴然として種々の花卉あり陶器石臼等の古器物を発掘すること多し。附近の原野中に点在せる小祠は阿応理屋恵御殿、ノロ殿内、根神殿内等の無格社なり」として遺物散布が認められることを紹介している（島袋1919）。しかし長い間本格的な調査は行われないうままであった。このため本格的な調査となったのは1984年より2カ年にわたって発掘調査を含む周辺遺跡全体の調査を実施している（松川ほか1986）。また、整備計画策定に係る調査が実施され、遺物の散布や石積み遺構分布が今帰仁城跡の周辺地域各所に見られることがわかりはじめている（今帰仁村教育委員会1992）。その一方、今帰仁城跡の便益施設拡充のために常に周辺遺跡の土地が開発の計画地に選定されるとともに、農地故に小規模の掘削や重機による伐採によって、もともとあったと考えられる石積み遺構や遺跡の毀損の危険が増している。

上述の社会的環境の中で、今帰仁城跡が2000年12月に世界遺産登録された。登録を契機に、今帰仁城跡への来訪者のために駐車場の整備が計画され、2002年（平成14年3月）に『今帰仁城跡周辺整備事業計画』が策定された（今帰仁村教育委員会2002）。その後、北部振興策事業によって今帰仁城跡周辺整備事業が採択され、2002年から事業計画面積12,900㎡にも及ぶ広い地域が開発計画の対象となる。今帰仁村では過去に実施していた試掘調査の結果などを踏まえ、恒久的構造物としての駐車場が設置される地域おおよそ4,000㎡において2003年4月～2003年12月まで現場での調査を行った。当該調査については既に本報告が刊行されているので参考にされたい。

1次調査（第1期調査）（昭和60年1月21日～昭和60年3月31日）

今帰仁城跡周辺遺跡西区において、試掘調査を行った。具体的にはⅠ区～Ⅴ区の地区をそれぞれ約2m×2mの試掘坑を設けて包含層の堆積状況や遺構の詳細を確認することを目的とした。この調査によって西区全体に遺跡が良好な状態で包蔵されていることが確認された。既報告（今帰仁村文化財調査報告書第12集）

1次調査（第2期調査）（昭和60年12月16日～昭和61年1月7日）

調査は、今帰仁城跡北側の指定地域外に存在する石垣遺構や、ミーミングスク等の石積み遺構の確認作業を主に行った。これによって7箇所石積み遺構が良好な状態で確認されるとともに、その形状や規模を確認することができた。既報告（今帰仁村文化財調査報告書第12集）

2次調査（平成15年4月24日～平成15年11月7日）

2次～3次、5次～10次調査は今帰仁城跡周辺整備事業に伴う緊急発掘調査である。事業の計画や地区単位による発掘調査を行うため、対象地域に限り調査を実施している。2次調査の調査対象地域は、Ⅰ区とⅡ区bとした地域約1,300㎡を対象とした。調査成果として、Ⅱ区b地域では遺構の分布が他の地域に比べ密集するような状況に無く、恒常的な生活地はこれよりも南側に分布中心があるものと考えられた。

またこの調査と並行して、関連遺跡の調査として当該地域に近接するシニグンニと呼称される石積み遺構の調査を7月28日～8月13日まで実施している。当該遺構に関しては、詳細な測

量図を作成するために写真測量を行った。既報告（今帰仁村文化財調査報告書第20集）

3次調査（平成15年5月14日～平成15年7月25日）

3次調査対象地域はハラクブ地区とした約5,000㎡を対象とする地域の遺跡有無確認調査及び、測量図の作成である。当該地域では岩の凹凸が著しく生活地としては不便であることから、道跡や貝塚的な遺物廃棄場、切岸や堀切など今帰仁城跡に付随するなんらかの防御的な遺構が発見されることを予測して調査を行った。既報告（今帰仁村文化財調査報告書第20集）

4次調査（平成15年9月24日～平成15年10月28日）

4次調査は、保存を目的に詳細調査を行うために文化庁の補助事業、村内遺跡発掘調査によって実施した東区の調査である。調査対象地域は東区Ⅰ区及びⅦ区において実施した。1m幅の試掘トレンチを設定し、地表面に既に露頭する石積み遺構の根石確認及び、包含層の堆積状況や遺構の分布密度などを確認することを目的とした。本報告（今帰仁村文化財調査報告書第24集）

5次調査（平成15年10月27日～平成16年1月7日）

5次調査は、Ⅴ区とⅣ区の一部を対象とした。当該地域は遺構全体が包含層で覆われている良好な状態で保存されていた地域である。多数の柱穴を確認することができた。柱穴密度が高い地域をまとめて屋敷地4として認識することができると考えられる。既報告（今帰仁村文化財調査報告書第20集）

6次調査（平成15年12月8日～平成16年2月25日）

6次調査は、Ⅲ区dとⅢ区cを対象とした。当地域は耕作地であったことからこれまで重機などの機械による耕作によって大きく攪乱されていたため、遺構の検出はその耕作の及ばない部分に限られた。また、Ⅲ区dとした区域は発掘調査の結果包含層が認められず岩盤が露頭する地域であったことからⅣ区に、Ⅲ区cは屋敷地3として認識することができる地域である。既報告（今帰仁村文化財調査報告書第20集）

7次調査（平成16年1月14日～平成16年1月26日）

7次調査は、Ⅳ区を対象とした。Ⅳ区は遺構の分布があまり認められない地域であり、岩盤露頭地域として恒常的生活の営みには縁遠い地域であると想定された。既報告（今帰仁村文化財調査報告書第20集）

8次調査（平成16年5月13日～平成16年11月10日）

8次調査は、Ⅲ区aを対象とした。資料整理時に遺構分布などからⅢ区dとあわせて屋敷地3として報告している。調査の結果建物跡を5棟（要検討1棟含む）復元することができた。また、調査終了後は、砂を敷き均し埋め戻しを行った。このため、調査地域については現在広場・道路となっているが、地下遺構は保存されるよう調整を計った。既報告（今帰仁村文化財調査報告書第20集）

9次調査（平成16年5月13日～平成16年12月4日）

9次調査はⅢ区bを対象とした。資料整理時に遺構分布などから屋敷地2として報告する。調査の結果建物跡を4棟（要検討1棟含む）復元することができた。また、調査終了後は、地

下遺構は保存されるよう調整を計った。しかし実際には、当該地区にはグスク交流センターが建設予定されており北側の一部に基礎工事が入るため遺構の毀損は否めない。それでも基礎工事以外の地区は建物の構造物が及ばない形で工事が行われるため本報告の遺構の大部分が現地保存される形となる予定である。本報告（今帰仁村文化財調査報告書第24集）

10次調査（平成16年12月21日～平成17年1月21日）

10次調査はⅡ区 a を対象とした。Ⅱ区 a の全面発掘という形ではなく、汚水タンクが設置され掘削が免れ得ない地点約20㎡（5×4m）の記録保存調査を行った。調査の結果2次調査の結果から遺構分布の密度が高い地域として予測されたが、実際に遺構が多く検出されるなどおおよそ屋敷地1において恒常的な生活が当該地域を中心とした地域であることが確かめられた。本報告（今帰仁村文化財調査報告書第24集）

11次調査（平成17年1月20日～平成17年3月31日）

11次調査はⅢ区 a の東南側道路部分である。既に実施されたⅢ区 a の調査によって遺構の一部が道路部分まで延びていることが想定されたため、一度道路部分を撤去して確認調査を実施した。また、第1次外郭調査（史跡整備事業）の成果と合わせて、城外に展開した集落遺跡の一部であることが推定され、11次調査地域と第1次外郭調査地域を概ね西区屋敷地5として認識しうると考えられる。次期報告（未定）

12次調査（平成16年12月2日～平成17年3月31日）

12次調査対象地域は東区Ⅶ区の西南側部分である。先の4次調査で遺跡の堆積状況などの確認を行った。この際に文化庁より、一つの地区において遺構の広がりを確認するようにご指導いただいた。このため17年度に遺構の分布状況などを確認することを目的に調査を実施した。発掘は玉城靖が担当し、調査補助として与那嶺俊・具志堅亮があたった。一部Ⅶ区とⅡ区の境を成す石積み遺構の根石の確認調査などを行ったが、当該地区の調査は保存を目的とする調査のため、遺構検出面において調査を止め面的な確認を行うことで完了している。調査終了後は保護砂を敷き埋め戻し完了した。本報告（今帰仁村文化財調査報告書第24集）

補足調査（平成18年4月24日～4月28日）

補足調査対象地域は大川原遺跡の切土の法面部分である。既に遺跡の大部分は毀損しているが、一方で開発が及んでいない部分には包含層が残っていることが確認されていた。このため法面を確認することで、遺跡の堆積状況を把握することを目的とする調査を行った。発掘は玉城靖が担当し、調査補助として与那嶺俊があたった。作業は軽微で、まず切土法面を一度清掃し、堆積状況を確認できるように流れ落ちている土砂を削った。道路部分に近接していることから、捨て土は土嚢袋に入れ後日土砂流出の対応としている。その後、堆積状況を図化して作業を完了した。本報告（今帰仁村文化財調査報告書第24集）

整理報告書作成の経緯

今回報告する資料は、今帰仁城跡周辺整備事業に係わるこれまでの調査成果をまとめるものである。主として今帰仁村内遺跡発掘調査によって得られた遺物の報告を目的とするが、今後今帰仁城跡周辺遺跡を理解する上で欠くことのできない情報を網羅することで、追加指定に資するようにと配慮し報告書をまとめることとした。

なお、平成18年度の整理については宮城弘樹を中心に実施した。整理作業では下記の方々に

依頼しご指導をいただいた。

石質同定：神谷厚昭（金城町石畳研究所）

自然遺物の整理分析作業

（貝 類）：黒住耐二（千葉県立中央博物館）、赤嶺信哉（名護市教育委員会）

（脊椎動物遺体）：樋泉岳二（早稲田大学）

（出土人骨）：土肥直美（琉球大学医学部）

（植物遺体）：高宮広土（札幌大学）

《参考文献》

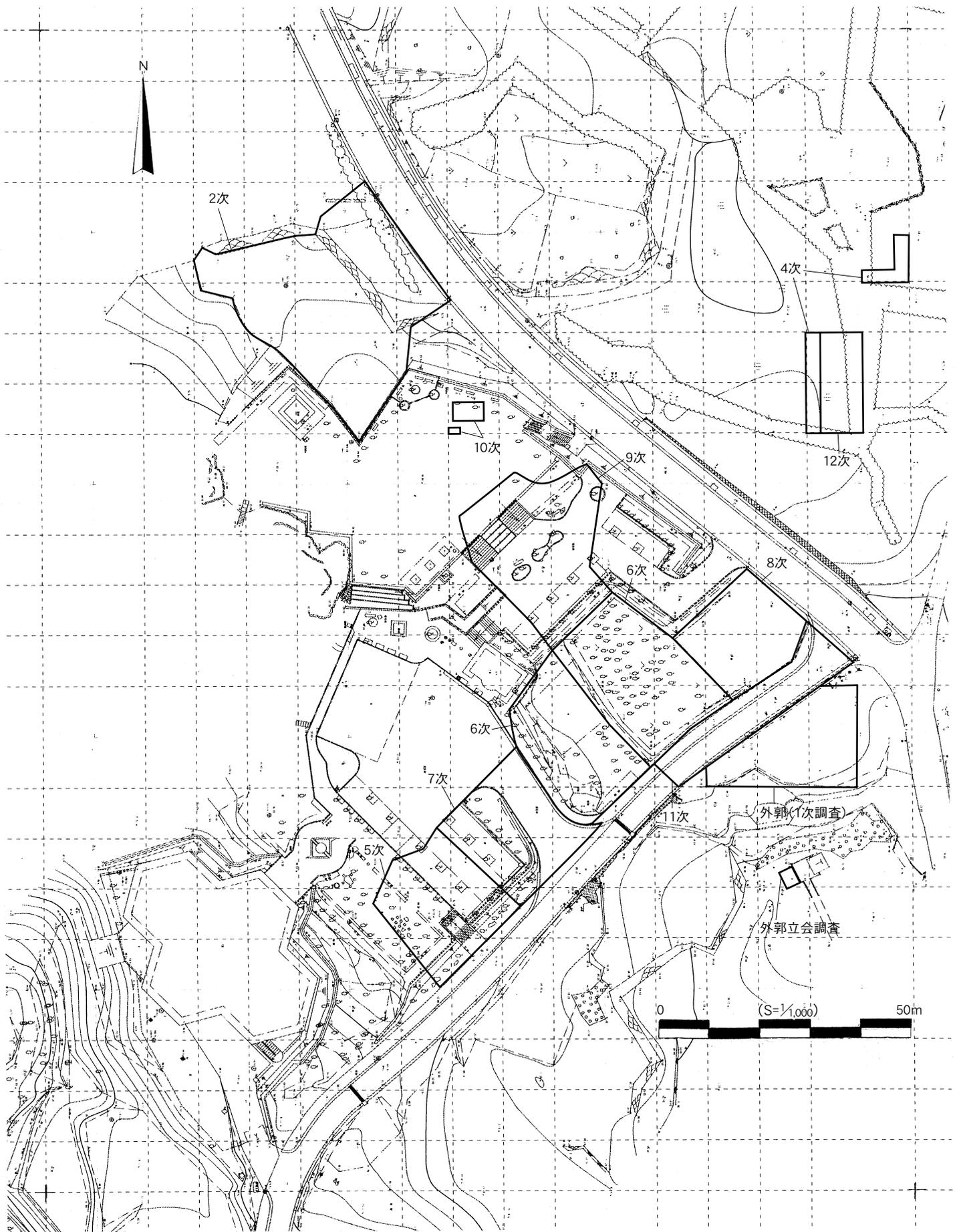
今帰仁村教育委員会（編） 2005年『今帰仁城跡周辺遺跡 II』今帰仁村文化財調査報告書第20集

今帰仁村教育委員会（編） 2002年『今帰仁城跡周辺整備計画書』今帰仁村教育委員会

島袋源一郎 1919年『沖繩縣國頭郡志』沖繩出版会

調査	年度	期 間	調査地区	調査原因	調査内容	調査面積	主な調査成果	備 考
0次		下記調査以外における表採資料	周辺遺跡	表採、持ち込み資料等				
1次	1 昭和59年	1985年1月21日～1985年3月31日	西区	重要遺跡確認	試掘調査	35箇所(152m)	ピット・石敷き遺構などを確認	
	2 昭和60年	1985年12月16日～1986年1月17日	東区・ミーミングスク・シニグン二ほか石積み遺構	重要遺跡確認	分布調査 範囲確認	踏査	石積み遺構を具体的に確認	
2次	平成15年	2003年4月24日～2003年11月7日	西区Ⅰ区・Ⅱ区b	公園整備(記録保存)	発掘調査	1300㎡	ピット等を確認	明治の地積図の道跡を確認
3次	平成15年	2003年5月14日～2003年7月25日	ハラクブ	公園整備(範囲確認)	試掘調査	41箇所(5,000㎡)	城郭外の堀切状遺構を発見	
4次	平成15年	2003年9月24日～2003年10月28日	東区(1・7区)	遺跡範囲確認	試掘調査	2地点(30㎡)	石積み内の遺構確認	
5次	平成15年	2003年10月27日～2004年1月7日	西区・Ⅴ区・Ⅳ区の一部	公園整備(記録保存)	発掘調査	400㎡	建物跡等を確認遺物多数	
6次	平成15年	2003年12月8日～2004年2月25日	西区Ⅲc・Ⅳ区(旧Ⅲd)	公園整備(記録保存)	発掘調査	800㎡	建物跡等を確認遺物多数	
7次	平成15年	2004年1月14日～2004年1月26日	西区Ⅳ区	公園整備(記録保存)	発掘調査	400㎡	露頭岩	
8次	平成16年	2004年5月13日～2004年11月10日	西区Ⅲa	公園整備(記録保存)	発掘調査	400㎡	建物跡等を確認遺物多数	
9次	平成16年	2004年5月13日～2004年12月4日	西区Ⅲb	公園整備(記録保存)	発掘調査	600㎡	建物跡等を確認遺物多数	
10次	平成16年	2004年12月21日～2005年1月21日	西区Ⅱa	公園整備(記録保存)	発掘調査	200㎡	ピット等を確認、遺物多数	
11次	平成16年	2005年1月20日～2005年3月31日	道路敷下	公園整備(記録保存)	発掘調査	200㎡	ピット等を確認、遺物多数	
12次	平成16年	2004年12月2日～2005年3月31日	東区(7区)	遺跡範囲確認	分布調査 範囲確認	200㎡	建物跡等を確認遺物多数	
資料整理	平成17年	2005年4月～2006年3月			資料整理			
補足調査	平成18年	2006年4月24日～2006年4月28日	大川原遺跡	法面崩落(記録保存)	土層観察	20㎡	遺物採集	
資料整理	平成18年	2006年4月～2007年3月			資料整理			

第4表 今帰仁城跡周辺遺跡調査履歴



第5図 今帰仁城跡周辺遺跡調査箇所位置図